

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1年制)	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	文法(中級)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	160 (8) 時間(単位)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時限	前期	教室名	501教室
担 当 教 員		実務経験と その関連資格			

《授業科目における学習内容》

毎回授業の最初に前回の内容のチェックテストを行う。初級後半の文法を復習しながらN3とN2の知識を積み上げていく。「聞く・話す・読む・書く」の4つの技能をバランスよく伸ばし、宿題では記述問題で理解度を確認する。基礎をしっかりと固めるため、N4からスタートする。N3・N2では記述問題を中心に文型を学び、N2に合格できる力を身につける。

《成績評価の方法と基準》

1. 試験:70%
2. 出席:20%
3. 平常点(宿題・チェックテスト):10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

使用教材:『みんなの日本語I 本冊(第2版)』『みんなの日本語II 本冊(第2版)』『新完全マスターN4文法』『新完全マスターN3文法』『新完全マスターN2文法』『学ぼう!にほんご 初中級』『学ぼう!にほんご 中級』
参考図書:『みんなの日本語I 翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語II 翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語初級I 第2版 書いて覚える文型練習帳』『みんなの日本語初級II 第2版 書いて覚える文型練習帳』

《授業外における学習方法》

授業前:次の授業内容の語彙・文法を予習してください。
授業後:宿題をするだけでなく、文を声に出して読む練習もしましょう。授業の最初に前の課の毎回小テストをします。

《履修に当たっての留意点》

それぞれの授業の前と後に必ず予習と復習をしてください。授業では積極的に日本語を使いましょう。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回 講義形式	授業を通じての到達目標	「みんなの日本語I」復習	「みんなの日本語I 本冊(第2版)」	復習
	各コマにおける授業予定	動詞活用と普通形の復習		
第2回 講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 相手の状況についての説明を求めたり、自分の状況やその理由を説明したりすることができるようになる。 理由や事情を説明して、丁寧な依頼ができるようになる。 理由や事情を説明して、助言や指示を求めることができるようになる。 	「みんなの日本語II 本冊(第2版)」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	第26課 「～んです」、「～ていただけませんか」、「～たらいいですか」		
第3回 講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> できること、できないことを言うことができるようになる。 見える、聞こえるなどの状態を言うことができるようになる。 	「みんなの日本語II 本冊(第2版)」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	第27課 可能動詞、「～しか」		
第4回 講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 同時に行われる継続的な動作を言うことができるようになる。 日常の習慣的な行為を言うことができるようになる。 複数の理由を並べて述べるができるようになる。 	「みんなの日本語II 本冊(第2版)」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	第28課 「～ながら」、「～ています(習慣)」、「～し～し」		
第5回 講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 事物の状態を描写できるようになる。 行為を完了する、あるいは完了したことを述べるができるようになる。 不都合な事態について残念、遺憾に思う気持ちを表現できるようになる。 	「みんなの日本語II 本冊(第2版)」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	第29課 自動詞・他動詞、「自・他動詞＋ています」、「～てしまいます」		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事物の状態について述べることができるようになる。 ・準備など、将来のために前もってしておくことを述べるようになる。 	「みんなの日本語II 本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第30課 「自・他動詞＋てあります」、「自・他動詞＋ておきます」		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意志や計画していることを述べるようになる。 ・予定を説明できるようになる。 	「みんなの日本語II 本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第31課 意向形、「意向形＋と思っています」、「～つもりだ」、「～(の)予定だ」		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・忠告や助言をすることができるようになる。 ・推量したことを確実さの程度によって言い表すことができる。 	「みんなの日本語II 本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第32課 「～ほうがいい」、「～かもしれない」、「～でしょう」		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・あ仮定条件を述べるようになる。 ・ある条件化での判断を述べたり、助言や指示を求めたりすることができるようになる。 	「みんなの日本語II 本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第35課 ば形、「～ばいいですか」、「～ば…ほど」		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標や努力目標を述べるようになる。 ・人の能力および物事の変化を述べるようになる。 	「みんなの日本語II 本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第36課 「～ように」、「～ようになる」、「～ようにする」		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・初級の受身表現が使えるようになる。 	「みんなの日本語II 本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第37課 受身、助詞「から(原料)」「で(材料)」		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文を文の一部に組み込んで、疑問に思っていることについての感想、判断またはそれに基づく行動を表明できるようになる。 ・やってみようと思うことを言うことができるようになる。 	「みんなの日本語II 本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第40課 「～かどうか」、「～てみます」、助数詞		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・行為の目的や目的を達成する「ため」が使えるようになる。 ・物の用途、評価を述べるようになる。 	「みんなの日本語II 本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第42課 「～ために(目的)」、「～のに」		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・物事の外観から、その変化の見通しや状態、性質を推察して表現できるようになる。 ・目的の行為を終えて、元の場所に戻ることを伝えることができるようになる。 	「みんなの日本語II 本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第43課 「そうだ(様態)」、「～てくる」		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・動作や程度が度を越し、好ましくない状態になったことや物を使用する際の難易度を示すことによって、そのものの評価を表すことができるようになる。 	「みんなの日本語II 本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第44課 「～すぎる」、「～にする」、「～やすい/にくい」		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1年制)		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	文法(中級)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	160 (8) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	501教室
担当教員		実務経験と その関連資格				

《授業科目における学習内容》

毎回授業の最初に前回の内容のチェックテストを行う。初級後半の文法を復習しながらN3とN2の知識を積み上げていく。「聞く・話す・読む・書く」の4つの技能をバランスよく伸ばし、宿題では記述問題で理解度を確認する。基礎をしっかり固めるため、N4からスタートする。N3・N2では記述問題を中心に文型を学び、N2に合格できる力を身につける。

《成績評価の方法と基準》

1. 試験:70%
2. 出席:20%
3. 平常点(宿題・チェックテスト):10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

使用教材:『みんなの日本語I 本冊(第2版)』『みんなの日本語II 本冊(第2版)』『新完全マスターN4文法』『新完全マスターN3文法』『新完全マスターN2文法』『学ぼう! にほんご 初中級』『学ぼう! にほんご 中級』
参考図書:『みんなの日本語I 翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語II 翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語初級I 第2版 書いて覚える文型練習帳』『みんなの日本語初級II 第2版 書いて覚える文型練習帳』

《授業外における学習方法》

授業前:次の授業内容の語彙・文法を予習してください。
授業後:宿題をするだけでなく、文を声に出して読む練習もしましょう。授業の最初に前の課の毎回小テストをします。

《履修に当たっての留意点》

それぞれの授業の前と後に必ず予習と復習をしてください。授業では積極的に日本語を使いましょう。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標 ・ある事態を想定し、その対処の仕方を述べるようになる。 ・期待外れの結果に対する話し手の意外感や不満の気持ちを表すことができるようになる。	「みんなの日本語II 本冊(第2版)」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	第45課 「～場合」、「～のに」		
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標 ・動作の段階を述べ事態や状況を説明することができるようになる。 ・話し手が確信していることを述べるようになる。	「みんなの日本語II 本冊(第2版)」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	第46課 「～ところ」、「～はず」、「～ばかり」		
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標 ・他から得た情報をそのまま伝えたり、自分の五感で判断されることを述べるようになる。	「みんなの日本語II 本冊(第2版)」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	第47課 「～そうだ(伝聞)」、「～ようだ」、「～がする」		
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標 ・他者(下位の者)への行為の強制や許可、容認を表すことができるようになる。 ・丁寧に許可を求めることができるようになる。	「みんなの日本語II 本冊(第2版)」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	第48課 使役		
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標 授受動詞の動作主と受け手の構造を理解し、使えるようになる。 他者への行為や他者からの行為、相手への希望を言えるようになる。	「新完全マスターN4文法」 オリジナル教材	予習と復習
	各コマにおける授業予定	授受動詞 て形+授受動詞、てほしい		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	自分への行為や他者への行為を言うことができるようになる。	「新完全マスターN4文法」 オリジナル教材	予習と復習
		各コマにおける授業予定	使役・受身・使役受身		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	初級総復習		予習と復習
		各コマにおける授業予定	初級復習		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	時間関係を説明する表現を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第1課 「～うちに」、「～間(に)」、「～てからでない・～てからでなければ」、「～ところだ・ところ+助詞」		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	ある物や行為の関係を説明する表現を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第2課 「～とおりだ」、「～によって・～によっては」、「～たびに」、など		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	比較を表す表現を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第3課 「～くらいだ」、「～くらい・・・ない」、「～くらいなら」、「～に限る」		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	対比を表す表現を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第4課 「～に対して」、「～反面」、「～一方で」、など		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	理由や原因を説明する表現を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第5課 「～ためだ」、「～によって・～による」、「～から・～ことから」、など		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	仮定条件を表す文法を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第6課 「～なら」、「～ては・～では」、「～さえ・・・ば・なら」、など		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	他の人が聞いたことやうわさなどを他の人に伝える表現を学び、それらの構造を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第7課 「～ということだ」、「～と言われている」、「～とか」、など		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	否定を表す表現を学び、それぞれの使い方を理解し、説明できるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第8課 「～はずがない・～わけがない」、「～とは限らない」、「～わけではない・～のではない」		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1年制)	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	文法(中級)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	160 (8) 時間(単位)
対象学年	1年	学期及び曜時限	前期	教室名	501教室
担当教員		実務経験と その関連資格			

《授業科目における学習内容》

毎回授業の最初に前回の内容のチェックテストを行う。初級後半の文法を復習しながらN3とN2の知識を積み上げていく。「聞く・話す・読む・書く」の4つの技能をバランスよく伸ばし、宿題では記述問題で理解度を確認する。基礎をしっかりと固めるため、N4からスタートする。N3・N2では記述問題を中心に文型を学び、N2に合格できる力を身につける。

《成績評価の方法と基準》

1. 試験:70%
2. 出席:20%
3. 平常点(宿題・チェックテスト):10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

使用教材:『みんなの日本語I 本冊(第2版)』『みんなの日本語II 本冊(第2版)』『新完全マスターN4文法』『新完全マスターN3文法』『新完全マスターN2文法』『学ぼう! にほんご 初中級』『学ぼう! にほんご 中級』
参考図書:『みんなの日本語I 翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語II 翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語初級I 第2版 書いて覚える文型練習帳』『みんなの日本語初級II 第2版 書いて覚える文型練習帳』

《授業外における学習方法》

授業前:次の授業内容の語彙・文法を予習してください。
授業後:宿題をするだけでなく、文を声に出して読む練習もしましょう。授業の最初に前の課の毎回小テストをします。

《履修に当たっての留意点》

それぞれの授業の前と後に必ず予習と復習をしてください。授業では積極的に日本語を使いましょう。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第31回	授業を通じての到達目標	希望を説明する表現を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	第9課 「～てもらいたい・～ていただきたい・～てほしい」、「～させてほしい・～させてもらいたい・～させていただきたい」、「～といい・～ばいい・～たらいい」		
第32回	授業を通じての到達目標	命令・禁止を表す表現を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	第10課 命令・禁止、「～こと、～べきだ・～べきではない」、「～たらどうか」		
第33回	授業を通じての到達目標	自分の意志を表す表現を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	第11課 「～ことにする・～ことにしている」、「～ようにする・～ようにしている」、「～ようとする」、「～つもりだ」		
第34回	授業を通じての到達目標	敬語を学び、敬語の体系を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	第12課 尊敬語、謙譲語、丁寧語		
第35回	授業を通じての到達目標	N3祖復習	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	N3まとめ問題		

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第36回	講義形式	授業を通じての到達目標 1課 ことがらが説明できるようになる。 ～とき、～直後にと同じ機能のN2の言葉	「新完全マスターN2」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	復習:～とき、～と 文型:～際(に)、～二歳して、～あたって、～たとたん(に)、～(か)と思うと、～(か)と思ったら、～か～ないかのうちに		
第37回	講義形式	授業を通じての到達目標 2課 ことがらが説明できるようになる。 ～していると同じ機能のN2の言葉	「新完全マスターN2」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	前の課のチェックテスト 文型:～最中だ、～うちに、～ばかりだ・一方だ、～ようとしている、～つつある、～つつ		
第38回	講義形式	授業を通じての到達目標 3課 ことがらが説明できるようになる。 ～後でと同じ機能のN2の言葉	「新完全マスターN2」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	前の課のチェックテスト 文型:～した後で、～てから、～てはじめて、～た上(で)、～次第、～て以来・～てこのかた、～てからでない・～てからでなければ		
第39回	講義形式	授業を通じての到達目標 4課 ことがらが説明できるようになる。 範囲の始まりと終わり・その間の説明ができる。	「新完全マスターN2」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	文型:から～かけて、～で(最終を表す)、～をはじめ(として)、～からして、～にわたって、～をつうじて、～をとおして、～限り、～だけ		
第40回	講義形式	授業を通じての到達目標 5課 ことがらが説明できるようになる。 限定の意味を「限り」を使って言える。	「新完全マスターN2」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	～だけ、～しか～ない、～に限り、～限り(は)、～限りでは、～に鍵って		
第41回	講義形式	授業を通じての到達目標 6課 ことがらが説明できるようになる。 だけではなく、それに加えて	「新完全マスターN2」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	～に限らず、～のみならず、～ばかりか、～もとより、～上(に)		
第42回	講義形式	授業を通じての到達目標 7課 ことがらが説明できるようになる。 ～ついて、～を相手にして	「新完全マスターN2」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	文型:～に関して、～をめぐって、～にかけて、～対して(A、B)、～にこたえて		
第43回	講義形式	授業を通じての到達目標 8課 ことがらが説明できるようになる。 基準にして	「新完全マスターN2」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	～をもとにして)、～に基づいて、～に沿って、～のもとで、のもとに、～に向け、～向き		
第44回	講義形式	授業を通じての到達目標 9課 ことがらが説明できるようになる。 ～に関して、～に対応して	「新完全マスターN2」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	～につれて、～にしたがって、～に伴って、～と共に、～次第だ/～に応じて/～につけて		
第45回	講義形式	授業を通じての到達目標 10課 ことがらが説明できるようになる。 2つの同じ言葉を受かって表す言葉	「新完全マスターN2」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	文型:～とか、とか、～やら、やら、～というか、というか、～にしても、～にしても、～といった		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1年制)	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	文法(中級)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	160 (8) 時間(単位)
対象学年	1年	学期及び曜時限	前期	教室名	501教室
担当教員		実務経験と その関連資格			

《授業科目における学習内容》

毎回授業の最初に前回の内容のチェックテストを行う。初級後半の文法を復習しながらN3とN2の知識を積み上げていく。「聞く・話す・読む・書く」の4つの技能をバランスよく伸ばし、宿題では記述問題で理解度を確認する。基礎をしっかりと固めるため、N4からスタートする。N3・N2では記述問題を中心に文型を学び、N2に合格できる力を身につける。

《成績評価の方法と基準》

1. 試験:70%
2. 出席:20%
3. 平常点(宿題・チェックテスト):10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

使用教材:『みんなの日本語I 本冊(第2版)』『みんなの日本語II 本冊(第2版)』『新完全マスターN4文法』『新完全マスターN3文法』『新完全マスターN2文法』『学ぼう! にほんご 初中級』『学ぼう! にほんご 中級』
参考図書:『みんなの日本語I 翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語II 翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語初級I 第2版 書いて覚える文型練習帳』『みんなの日本語初級II 第2版 書いて覚える文型練習帳』

《授業外における学習方法》

授業前:次の授業内容の語彙・文法を予習してください。
授業後:宿題をするだけでなく、文を声に出して読む練習もしましょう。授業の最初に前の課の毎回小テストをします。

《履修に当たっての留意点》

それぞれの授業の前と後に必ず予習と復習をしてください。授業では積極的に日本語を使いましょう。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第46回	講義形式	授業を通じての到達目標 11課 主観を含めて説明できるようになる。 ～に関係なく、無視して	「新完全マスターN2」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	文型:～ないでvs～なくて、～を問わず、～にかかわらず、～もかまわず、～はともかく、～はさておき		
第47回	講義形式	授業を通じての到達目標 12課 主観を含めて説明できるようになる。 強く否定する	「新完全マスターN2」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	文型:絶対～ない、～はずがない、～ないことはない、～わけがない、～どころではない、～どころか、～ものか、～わけではない、～というわけではない、～というものではない、～というものでもない		
第48回	講義形式	授業を通じての到達目標 13課 主観を含めて説明できるようになる。 ～(話題)は	「新完全マスターN2」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	文型:～とは、～といえば、～というと、～といえば、～といったら、～(のこと)となると、～といったら		
第49回	講義形式	授業を通じての到達目標 14課 主観を含めて説明できるようになる。 逆説	「新完全マスターN2」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	～だけ、～しか～ない、～に限り、～限り(は)、～限りでは、～によって限って		
第50回	講義形式	授業を通じての到達目標 15課 主観を含めて説明できるようになる。 もし～、たとえ～(後件に注意する)	「新完全マスターN2」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	N3復習、～としたら、～とすれば、～とすると、～となったら、～となれば、～となると、～ものなら、～(よ)うものなら、～ないことには、～を抜きにしては、～としても、～にしても、～にして、～にせよ		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第51回	講義形式	授業を通じての到達目標	16課 主観を含めて説明できるようになる。 理由を表す言葉(1)	「新完全マスターN2」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	文型:N4文型復習(理由～て、～から、～ので) ～によって、～ものだから、～もので、～もの、～おかげだ、～せいだ、～あまり、～につき		
第52回	講義形式	授業を通じての到達目標	17課 主観を含めて説明できるようになる。 理由を表す言葉(2)	「新完全マスターN2」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	文型:～ことだし、～のことだから、～だけに、～ばかりに、～からには、～以上は、～上は、～ばかりの復習		
第53回	講義形式	授業を通じての到達目標	18課 主観を含めて説明できるようになる。 できない、できる	「新完全マスターN2」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	文型: 初級復習(可能形)、～にくいvs～づらい ～がたい、～わかにはいかない、～わけにもいかない (「わけ」復習)、～かねる、～ようがない、～どころではない、～得る/得ない		
第54回	講義形式	授業を通じての到達目標	19課 主観を含めて説明できるようになる。 ～を見て評価すると、～の立場で評価すると	「新完全マスターN2」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	文型: N3文型復習(～を考えると、～からいうと) ～わりには、～にしては、～だけのことはある、～として、～にとって、～にしたら、～にすれば、～にしてみれば、～にしても		
第55回	講義形式	授業を通じての到達目標	20課 主観を含めて説明できるようになる。 結果がどうなったか。	「新完全マスターN2」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	文型: ～ところ、～きり、～あげく、～末(に)、～ところだった、～ずじまいだ		
第56回	講義形式	授業を通じての到達目標	21課 主観を含めて説明できるようになる。 強調	「新完全マスターN2」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	文型: ～こそ、～くらい、～など、～まで、～として～ない、～さえ、～てでも		
第57回	講義形式	授業を通じての到達目標	22課 主観を述べることができる。	「新完全マスターN2」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	文型:～とみえる、～かねない、～おそれがある、～まい、～ではあるまい、～に違いない、～に相違ない、～に決まっている		
第58回	講義形式	授業を通じての到達目標	23課 主観を述べることができる。 感想を言う、主張する	「新完全マスターN2」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	文型: ～ものだ、～というものだ、～にすぎない、～に他ならない、～に越したことはない、～しかない、～よりほかない、～べきだ/～べきではない		
第59回	講義形式	授業を通じての到達目標	24課 主観を述べることができる。 提案する、意志を表す。	「新完全マスターN2」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	文型:～ようではないか、～ことだ、～ものだ、～ものではない、～ことはない、～まい/～ようか～まいか、～ものか		
第60回	講義形式	授業を通じての到達目標	25課 主観を述べることができる。 強く感じる・思いが強いられる。	「新完全マスターN2」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	文型: ～てしかたがない、～てしようがない、～てたまらない、～てならない、～ないではいられない、～ないわけにはいかない、～ざるを得ない		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1年制)	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	文法(中級)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	160 (8) 時間(単位)
対象学年	1年	学期及び曜時限	前期	教室名	501教室
担当教員		実務経験と その関連資格			

《授業科目における学習内容》

毎回授業の最初に前回の内容のチェックテストを行う。初級後半の文法を復習しながらN3とN2の知識を積み上げていく。「聞く・話す・読む・書く」の4つの技能をバランスよく伸ばし、宿題では記述問題で理解度を確認する。基礎をしっかりと固めるため、N4からスタートする。N3・N2では記述問題を中心に文型を学び、N2に合格できる力を身につける。

《成績評価の方法と基準》

1. 試験:70%
2. 出席:20%
3. 平常点(宿題・チェックテスト):10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

使用教材:『みんなの日本語I 本冊(第2版)』『みんなの日本語II 本冊(第2版)』『新完全マスターN4文法』『新完全マスターN3文法』『新完全マスターN2文法』『学ぼう! にほんご 初中級』『学ぼう! にほんご 中級』
参考図書:『みんなの日本語I 翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語II 翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語初級I 第2版 書いて覚える文型練習帳』『みんなの日本語初級II 第2版 書いて覚える文型練習帳』

《授業外における学習方法》

授業前:次の授業内容の語彙・文法を予習してください。
授業後:宿題をするだけでなく、文を声に出して読む練習もしましょう。授業の最初に前の課の毎回小テストをします。

《履修に当たっての留意点》

それぞれの授業の前と後に必ず予習と復習をしてください。授業では積極的に日本語を使いましょう。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第61回	講義形式	授業を通じての到達目標 26課 主観を述べることができる。 願う、感動する。	「新完全マスターN2」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	文型:~たいものだ、~てほしいものだ、~ものだ、~ないもの(だろう)か、~ものがある、~ことだ、~ことだろう		
第62回	講義形式	授業を通じての到達目標 復習	「新完全マスターN2」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	1-26課		
第63回	講義形式	授業を通じての到達目標 読解文法 お礼の言葉や感謝の言葉が言えるようになる。	「学ぼう日本語初中級」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語初中級3課」 文型:おかげで、せいで、~ように、~て(理由)、~て(行為の授受)		
第64回	講義形式	授業を通じての到達目標 お礼の言葉や感謝の言葉が言えるようになる。	「学ぼう日本語初中級」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語初中級3課」 文型:おかげで、せいで、~ように、~て(理由)、~て(行為の授受)		
第65回	講義形式	授業を通じての到達目標 元の言葉から意味を推測できるようになる。	「新完全マスターN2」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	「際する」「あたる」「通じる」など		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第66回	講義形式	授業を通じての到達目標	「言う」「する」を使った文型をマスターする。	「新完全マスターN2」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	～といった、～からしてなど		
第67回	講義形式	授業を通じての到達目標	読解文法 問題に対しアドバイスできるようになる。	「学ぼう日本語 初中級」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語初中級14課」 文型:～ことはない、～しかない、～かわりに、～にかわって		
第68回	講義形式	授業を通じての到達目標	読解文法 問題に対しアドバイスできるようになる。	「学ぼう日本語 初中級」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語初中級14課」 文型:～ことはない、～しかない、～かわりに、～にかわって		
第69回	講義形式	授業を通じての到達目標	古い言葉から元の言葉の意味を理解する。	「新完全マスターN2」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	～ず、～べし、～まい、など		
第70回	講義形式	授業を通じての到達目標	「もの」「こと」を使った言葉をマスターする。	「新完全マスターN2」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	～ものか、～ものの、～ことだし、～ことだなど		
第71回	講義形式	授業を通じての到達目標	状況が説明できるようになる。	「学ぼう日本語 初中級」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語初中級17課」 残念だと思ったことを伝える。		
第72回	講義形式	授業を通じての到達目標	状況が説明できるようになる。	「学ぼう日本語 初中級」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語初中級17課」 残念だと思ったことを伝える。		
第73回	講義形式	授業を通じての到達目標	「わけ」「ところ」を使った言葉をマスターする。	「新完全マスターN2」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	～わけがない、～わけではない、～どころではない、～たところなど		
第74回	講義形式	授業を通じての到達目標	同じ言葉、対になる言葉、特別な助詞の使い方をマスターする。	「新完全マスターN2」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	～やら、～やら、～だの、～だの、など、までなど		
第75回	講義形式	授業を通じての到達目標	感激したことや驚いたことを表せるようになる。	「学ぼう日本語 中級」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語中級21課」 文型:～だけあって、～だけのことはある、～ことに、～こそ、～ことか		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1年制)	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	文法(中級)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	160 (8) 時間(単位)
対象学年	1年	学期及び曜時限	前期	教室名	501教室
担当教員		実務経験と その関連資格			

《授業科目における学習内容》

毎回授業の最初に前回の内容のチェックテストを行う。初級後半の文法を復習しながらN3とN2の知識を積み上げていく。「聞く・話す・読む・書く」の4つの技能をバランスよく伸ばし、宿題では記述問題で理解度を確認する。基礎をしっかり固めるため、N4からスタートする。N3・N2では記述問題を中心に文型を学び、N2に合格できる力を身につける。

《成績評価の方法と基準》

1. 試験:70%
2. 出席:20%
3. 平常点(宿題・チェックテスト):10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

使用教材:『みんなの日本語I 本冊(第2版)』『みんなの日本語II 本冊(第2版)』『新完全マスターN4文法』『新完全マスターN3文法』『新完全マスターN2文法』『学ぼう! にほんご 初中級』『学ぼう! にほんご 中級』
参考図書:『みんなの日本語I 翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語II 翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語初級I 第2版 書いて覚える文型練習帳』『みんなの日本語初級II 第2版 書いて覚える文型練習帳』

《授業外における学習方法》

授業前:次の授業内容の語彙・文法を予習してください。
授業後:宿題をするだけでなく、文を声に出して読む練習もしましょう。授業の最初に前の課の毎回小テストをします。

《履修に当たっての留意点》

それぞれの授業の前と後に必ず予習と復習をしてください。授業では積極的に日本語を使いましょう。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第76回	講義形式	授業を通じての到達目標 感激したことや驚いたことを表せるようになる。	「学ぼう日本語中級」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語中級21課」 上手な感情の表し方		
第77回	講義形式	授業を通じての到達目標 N2復習	オリジナルハンドアウト	予習と復習
	各コマにおける授業予定	N2まとめ		
第78回	講義形式	授業を通じての到達目標 「できない」ということを違う言葉で表現できるようになる。	「学ぼう日本語中級」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語初中級25課」 文型:～ざるを得ない、～ようがない、～かねるなど		
第79回	講義形式	授業を通じての到達目標 「できない」ということを違う言葉で表現できるようになる。	「学ぼう日本語中級」	予習と復習
	各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語初中級25課」 上手な否定の仕方		
第80回	講義形式	授業を通じての到達目標 総復習	オリジナルハンドアウト	予習と復習
	各コマにおける授業予定	総まとめ		